出川Englishに学ぶ

井下　温子

Sorry, Canadian? Question OK? （ごめんなさい、カナダ人？質問いい？）たったの4単語。あっという間に彼は異国の地で現地の人とコミュニケーションを取りはじめます。『世界の果てまでイッテQ』のワンコーナーである『出川哲朗のはじめてのおつかい』の一場面です。みなさんも見たことがある人が多いのではないでしょうか。

このコーナーでは、出川さんが外国を訪れ、現地の人とコミュニケーションを取りながら、与えられたミッションをクリアします。日本人に助けてもらうことと、タクシー移動は禁じられています。出川さんは自身の知りうる限りの英語を使って現地の人とコミュニケーションを取らなければミッションをクリアすることはできません。

例えば、ロンドンで『大英博物館をリポートし、大人気のアヒルを購入せよ』というミッションがありました。
出川さんは「アヒル（=a duck）」という英単語を知りません。みなさんだったらこの状況をどのようにクリアしますか。

出川さん「Do you know ガーガーバード?」
現地の人「No, sorry.」（数名の人に尋ねるが伝わらない。）
出川さん「Do you know yellow chicken? ヒヨコのbrother.」（これも全然伝わらない。）
出川さん「あ、いい作戦思いついた！ Do you know Donald Duck?」
現地の人「Yes.」
出川さん「Mickey Mouse は マウス. Donald Duck は what?」
現地の人「It's a duck!」
このようなやりとりを繰り返し、少しずつ答えに近づきます。

出川さんの英語力はそれほど高くはありません。1度で聞き取れず、何度聞き直してもすぐに忘れてしまいます。にも関わらず、これまでクリアできなかったミッションはありません。

なぜなのでしょう？

出川さんは、英語だけではなく、ジェスチャーを使ったり、別の言葉で置き換えたり、その場にある物を用いたりしながら言いたいことを伝えます。とにかくありとあらゆる方法を使って一生懸命尋ねます。すると、尋ねられた人は「この人は英語があまりしゃべれない」「困っている」ということを理解します。でもなぜか、「なんとか助けてあげたい。」と考え、出川さんが何を尋ねようとしているのかを一生懸命理解しようとします。出川さんは言います。『英語はハートがすべてなんで。文法なんて関係ないですね。ハートと単語と自分の思いをすべて伝えれば、絶対に通じる！』

ここに、コミュニケーションの根幹があります。コミュニケーションに高い語学力は必ずしも必要ではないのです。大切なのは『伝えたい』という気持ちと、『伝える工夫』なのです。

このことは、英語に限ったことではありません。人と人が理解し合うには、コミュニケーションが必要です。理解してもらえなければ理解してもらえるまで粘り強くコミュニケーションを取り続けることで伝わることもあります。

出川さんはある番組でこう語っています。「（自分がやっていることには）批判的な人もいるかもしれません。しかし、それ以上に笑ってくれている人がいっぱいいるような気がするんですよ。」また、「プロフェッショナルとは……ブレないこと。ブレないで自分の好きなことをやり続けること。」とも言っています。

好きで始めたことでも、うまくいかなければあきらめたくなることは誰にでもあると思います。しかし、何度失敗してもブレずにやり続けること。それが、成功への第一歩です。

出川さんが一生懸命伝える様子はコミカルでもあり、『自分にもできるかもしれない。』と、勇気ももらえます。

これから社会に出ていく皆さん、失敗を恐れず様々なことにチャレンジしましょう。

一生懸命頑張っていれば、時間がかかるかもしれないけど、きっと誰かが見ていてくれるから。

by　出川哲朗